

第 84 回日本医学会定例評議員会

平成 29 年 2 月 17 日 (金) 於：医師会館小講堂

午後 3 時開会

議長(高久史磨日本医学会長) 時間になりましたので、ただ今から第 84 回日本医学会定例評議員会を開催いたします。ご多忙のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

午後 2 時 55 分の状況で 77 名の方がご出席で、61%の評議員の方のご出席をいただいていますので、この定例評議員会は成立しています。定例評議員会は毎年 2 月に開催し、学会長が議長となることが日本医学会規則第 13 条で決まっていますので、私が議長として進行させていただきます。

■日本医師会長挨拶

議長(高久日本医学会長) はじめに、日本医師会長の横倉義武先生にご挨拶をお願いします。

横倉日本医師会長 先生方、こんにちは。ご紹介いただきました日本医師会の横倉と申します。日本医学会定例評議員会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに日本医学会並びに各分科会が、わが国の医学および医療の水準の向上に対し、平素より多大なるご尽力をされていることに衷心より敬意を表する次第です。

日本医師会と日本医学会の歴史を振り返りますと、日本医師会は大正 5 年 11 月に医師による初の全国統一組織として誕生し、その後昭和 22 年に現在の日本医師会につながる新生の日本医師会ができました。今年は新生日本医師会からちょうど 70 年目を迎えるわけです。その翌年の昭和 23 年に開催されました第 2 回定例代議員会で、日本医師会の中に、学術団体である日本医学会を置くことが当時の GHQ の指導により決まり、以後今

日に至るまで車の両輪として共に歩み続けて参りました。

1 例を挙げますと、昨年 11 月には母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査について、施設認定や登録を受けていない医療者さん、検査技師さんが検査を実施しているという報道を受けまして、日本医学会、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、および日本人類遺伝学会と共に記者会見を行ったところでした。また、同月に医学研究等における倫理指針の見直しの方向性についての記者会見も、高久会長と共に行ったところでした。

日本医師会といたしましては、引き続き日本医学会と協力をして、日本の医療の学問的進歩を国民の皆さんに提供するべく、たゆまぬ努力を続けて参りたいと考えています。また、日本医学会と共に日本の医療・医学をリードする学術専門団体として、今後も変わらず車の両輪として共に協力をしていきたいと思っています。

日本医学会ならびに各分科会が今後ますます発展されますように期待をしまして、挨拶の言葉とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

議長(高久日本医学会長) 横倉先生、ご多忙なところご挨拶をいただきましてありがとうございます。

■議事録署名人

議長(高久日本医学会長) それでは、これから議事に入ります。最初に、議事録署名人の選出をさせていただきたいと思います。議長が指名することになっていますので、私から指名させていただきたいと思います。基礎・社会医学系は日本生

第 84 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	坂井 建雄	日本麻醉科学会	外 須美夫	日本動脈硬化学会	(欠)
日本解剖学会	(連)寺田 純雄	日本胸部外科学会	(連)小山 信彌	日本東洋医学会	佐藤 弘
日本生理学会	(連)赤羽 悟美	日本脳神経外科学会	(代)新井 一	日本小児神経学会	岡 明
日本生化学会	嶋田 一夫	日本輸血・		日本呼吸器外科学会	(代)吉野 一郎
日本薬理学会	飯野 正光	細胞治療学会	(代)牧野 茂義	日本医学教育学会	鈴木 康之
日本病理学会	深山 正久	日本医真菌学会	(代)原田 和俊	日本医療情報学会	大原 信
日本癌学会	中釜 斉	日本農村医学会	(連)羽田 明	日本疫学会	秋葉 澄伯
日本血液学会	三谷 絹子	日本糖尿病学会	(欠)	日本集中治療医学会	西村 匡司
日本細菌学会	辻 孝雄	日本矯正医学会	新妻 宏文	日本平滑筋学会	羽生 信義
日本寄生虫学会	(連)小林富美恵	日本神経学会	(代)西山 和利	日本臨床薬理学会	渡邊 裕司
日本法医学会	池田 典昭	日本老年医学会	(代)秋下 雅弘	日本神経病理学会	高橋 均
日本衛生学会	(連)横山 和仁	日本人類遺伝学会	(連)要 匡	日本脳卒中学会	(代)高橋 愼一
日本民族衛生学会	渡辺 知保	日本リハビリテーション		日本高血圧学会	(欠)
日本栄養・食糧学会	近藤 和雄	医学会	久保 俊一	日本臨床細胞学会	(連)岡本 愛光
日本温泉気候物理医学会	大塚 吉則	日本呼吸器学会	橋本 修	日本透析医学会	中元 秀友
日本内分泌学会	(代)鈴木 眞理	日本腎臓学会	柏原 直樹	日本内視鏡外科学会	渡邊 昌彦
日本内科学会	福田 恵一	日本リウマチ学会	山本 一彦	日本乳癌学会	中村 清吾
日本小児科学会	(欠)	日本生体医工学会	杉町 勝	日本肥満学会	(代)岡田 知雄
日本感染症学会	岩田 敏	日本先天異常学会	大谷 浩	日本血栓止血学会	(欠)
日本結核病学会	鈴木 公典	日本肝臓学会	泉 並木	日本血管外科学会	古森 公浩
日本消化器病学会	(連)滝川 一	日本形成外科学会	(欠)	日本レーザー医学会	(欠)
日本循環器学会	磯部 光章	日本熱帯医学会	(欠)	日本臨床腫瘍学会	中川 和彦
日本精神神経学会	(欠)	日本小児外科学会	黒田 達夫	日本呼吸器内視鏡学会	(欠)
日本外科学会	渡邊 聡明	日本脈管学会	(代)保科 克行	日本プライマリ・ケア連合学会	(欠)
日本整形外科学会	丸毛 啓史	日本周産期・		日本手外科学会	三上 容司
日本産科婦人科学会	藤井 知行	新生児医学会	和田 和子	日本脊椎脊髄病学会	(欠)
日本眼科学会	山下 英俊	日本人工臓器学会	(欠)	日本緩和医療学会	(代)有賀 悦子
日本耳鼻咽喉科学会	小川 郁	日本免疫学会	(欠)	日本放射線腫瘍学会	茂松 直之
日本皮膚科学会	(代)島田 眞路	日本消化器外科学会	瀬戸 泰之	日本臨床スポーツ医学会	川原 貴
日本泌尿器科学会	(欠)	日本臨床検査医学会	(連)山田 俊幸	日本熱傷学会	(欠)
日本口腔科学会	丹沢 秀樹	日本核医学会	(連)橋本 禎介	日本小児循環器学会	(代)土井庄三郎
日本医学放射線学会	本田 浩	日本生殖医学会	苛原 稔	日本睡眠学会	伊藤 洋
日本保険医学会	西川 征洋	日本救急医学会	(連)横田 裕行	日本磁気共鳴医学会	(連)小畠 隆行
日本医療機器学会	安原 洋	日本心身医学会	野村 忍	日本肺癌学会	(連)弦間 昭彦
日本ハンセン病学会	(連)宇野 公男	日本医療・病院管理学会	井出 義雄	日本胃癌学会	(欠)
日本公衆衛生学会	小林 廉毅	日本消化器内視鏡学会	(欠)	日本造血細胞移植学会	岡本真一郎
日本衛生動物学会	関 なおみ	日本癌治療学会	(連)古阪 徹	日本ペインクリニック学会	(欠)
日本交通医学会	(連)小菅 智男	日本移植学会	(代)篠田 昌宏	日本病態栄養学会	(連)山田祐一郎
日本体力医学会	下光 輝一	日本職業・災害医学会	調所 廣之	日本認知症学会	秋山 治彦
日本産業衛生学会	(連)柳澤 裕之	日本心臓血管外科学会	上田 裕一	日本集団災害医学会	小井土雄一
日本気管食道科学会	(連)塩谷 彰浩	日本リンパ網内系学会	山川 光徳	日本小児血液・がん学会	檜山 英三
日本アレルギー学会	斎藤 博久	日本自律神経学会	黒岩 義之		
日本化学療法学会	清田 浩	日本大腸肛門病学会	(欠)		
日本ウイルス学会	(欠)	日本超音波医学会	(欠)		

(連)：連絡委員 (代)：代理出席 (欠)：欠席

役員	高久会長 清水・岸・寺本・門田各副会長
(幹事)	大江, 池田, 小川, 春日, 門脇, 小池, 三嶋, 小西, 高本, 森, 稲葉 (欠席 成宮, 宮園, 遠山, 岩本, 國土, 奥村, 里見)
総会	(第 30 回)：齋藤会頭, 高橋準備委員長, 村田幹事長

化学会の嶋田一夫先生、臨床医学系は日本産科婦人科学会の藤井知行先生をお願いいたします。このお2人に議事録署名人をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

■次第（議事概要）

議長（高久日本医学会長） 次に議事の概要ですが、初めに第30回日本医学会総会の準備状況を総会役員の方からお伺いし、その後平成28年度の年次報告をいただきます。この際に、日本医学会の予算について報告をいたします。

協議事項としては、平成29年度の事業計画、日本医学会加盟学会についてお諮りいたします。その後、質疑応答の時間をとりまして、日本医学会定例評議員会は閉会となります。また、閉会に引き続きまして日本医学会連合の臨時総会を開催いたしますので、よろしくをお願いいたします。

■日本医学会長挨拶

議長（高久日本医学会長） それでは、私から最初にご挨拶申し上げます。本日はご多忙のところお集まりいただきましてありがとうございます。日本医学会は、先ほど横倉会長からお話がありましたように、長く日本医師会のもとにあったわけですが、重要な機構などに社員として参加するためには法人化していかなければなりませんので、一昨年春に日本医学会連合を立ち上げました。この評議員会終了後に日本医学会連合の臨時総会を開きますので、よろしくをお願いいたします。

■第30回日本医学会総会準備状況

議長（高久日本医学会長） では、議事進行をさせていただきます。報告事項として第30回日本医学会総会準備状況を、齋藤英彦会頭からよろしくをお願いいたします。

齋藤第30回日本医学会総会会頭 皆さん、こんにちは。長い歴史を持つ日本医学会総会も、時代と共に開催方法などを変えていく必要があると考えています。ただ一方、変わらない部分が2つあり、第1点は、各分科会では取り上げられることの少ない横断的、学際的な課題の議論を含める

ということ。第2点は、4年に1回、医学・医療の現状を一般社会に知ってもらい、理解してもらう機会、社会へのアピールです。その社会へのアピールは、最近は講演のみならず体験型の展示をよく使うようになってきました。例を挙げますと、日本の医療提供システムがいかに優れており、国民はいかに恵まれているかということは、国の中でも外でも案外認識されていないので、こういう機会によく知ってもらいたいと考えています。詳細は高橋準備委員長からご報告いたします。

高橋第30回日本医学会総会準備委員長 準備委員長を拝命しています名古屋大学医学系研究科長の高橋です。日本医学会の年次報告の1ページから、簡単にかいつまんでご報告させていただきます。

1ページをご覧ください。第30回の日本医学会総会は「2019年中部」という名称で準備させていただいていますが、メインテーマを「医学と医療の進化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～」ということで進めています。

まずプログラムの準備状況を簡単にご説明したいと思います。そこにあります4つの柱に沿って今進めているところです。特にプログラム準備にあたって、分科会の先生方に昨年夏にアンケートをとらせていただきまして、本当に貴重なご意見を多数いただきましてありがとうございます。現在、プログラム委員会でそのアンケートをもとに中部8県のプログラム委員に、今まで名古屋に3回集まっていたいただいて検討していただきまして、先生方からいただいた意見を盛り込みながら、プログラム案を立案しているところです。現在、90程度のシンポジウムを企画していただきまして、今年度末を目指してプログラムをほぼ確定したいという計画で進めていますのでよろしくをお願いいたします。

それからもう1つ、プログラムの2にありますように、今回、日本医学会奨励賞というものを設け、各分科会から優秀な発表をした若手の方を推薦していただき、その中から選出して、表彰と発表を医学会総会で行いたいと思っています。またご案内申し上げたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

続きまして、展示委員会です。展示委員会は、今、3つのワーキングを作って準備しています。1つは、医学史展。2つ目は、先ほど齋藤会頭からご紹介がありましたように、市民展示というのはきわめて重要ですので、市民展示のワーキング。それから、学術展示のワーキングと3つを作って準備しています。医学史展は名古屋大学博物館で行い、市民展示についてはポートメッセなごやを会場に、学術展示はメイン会場である名古屋国際会議場と、ポートメッセなごやで開催する予定です。

市民展示の名称は下から2〜3行目にありますように「みて・ふれて・まなぶ 医のテーマパーク」という名称で、今準備しています。ポートメッセなごやの展示スペースが35,000m²ありましてかなり広いスペースをとって準備ができますので、これから本格的に参加の企業などの募集を開始する予定で、準備を進めているところです。

次に2ページ目です。広報委員会ですが、本日医学会総会の封筒でお配りしましたように、ロゴとポスターを決定しました。ロゴは中日新聞の記事をつけておきましたが、今回、愛知県を中心にデザイン科のある大学の学生にロゴの公募をさせていただいて、学生から応募のあった提案から、新聞記事にあるこのロゴを決定させていただきました。これは今回の4つのメインテーマを4色で表して、それを人でつなぐという形でのロゴになっていて、名古屋市立大学3年生の山田さんという方が提案したものを採用させていただきました。

それから、ポスターも2種類作成しています。黄色い方は、孵化した卵の上に日本地図を描いて、その上に中部8県を少し強調したものが1点。もう1つ、カラフルなほうですが、これは中部8県の代表的な名称・史跡等をそれぞれ1県1つ入れまして、中にロゴを入れたポスターを作成しました。4月になりましたら各分科会、あるいは大学、研究機関に印刷してお配りしたいと思いますので、ぜひ宣伝していただきますように、よろしくお願ひしたいと思っていますところ。

会期や会場、役員等は、前回この会でご説明し

たとおりです。2ページから3ページに記載してありますので、ご確認いただければと思います。引き続き分科会からのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。以上です。

議長(高久日本医学会長) どうもありがとうございました。非常に立派なロゴを作られました。これから齋藤先生、高橋先生を中心に、第30回の医学会総会が成功裏に始まり、終わることを強く希望しています。

2016(平成28)年度日本医学会年次報告

議長(高久日本医学会長) それでは次に、平成28(2016)年度の日本医学会年次報告の件ですが、これはお手元の「資料1」にありますので、4ページ以降をご覧くださいと思います。最初に医学会総会のことについてご報告がありましたが、4ページ目からは、日本医学会シンポジウム、これは毎年2回開催していますが、平成28年6月16日に「医学用語を考える—医療者・市民双方の視点から—」を開催しました。12月15日には「肥満症」についてのシンポジウムを開催し、各々の参加者は305名、186名でした。これらのシンポジウムの記録は、DVDを作製し、各学会その他の機関にお配りしています。また、日本医学会のホームページのオンラインライブラリーで映像の配信をしています。

次に6ページの、5. 日本医学会公開フォーラム。これは一般の方を対象にした公開フォーラムで、6月18日には「肝炎」を、12月24日に「乳がん—最新情報を知ろう—」をテーマに開催しました。参加者は各々184名、297名になっています。この公開フォーラムのための企画委員会も開催しています。

次に7ページの、6. 日本医学会医学用語管理委員会。これは脊山先生が委員長ですが、大江先生、小野木先生他の方々が委員になっています。この委員会は、日本医学会としては非常に歴史の長い委員会です。各分科会から選出された用語委員の方々に集まっております。日本医学会分科会用語委員会を年1回開催しています。第149回の日本医学会シンポジウム「医学用語を考

える—医療者・市民双方の視点から—」は、この用語管理委員会が中心となって開催したシンポジウムです。

次に8ページの8. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会を開催し、受賞者を選びました。3名の方が医学賞を授与され、15名の方が医学研究奨励賞を授与されました。この賞には、横倉医師会長と医学会長の私の両方の名で賞状を差し上げています。

次に9. 日本医学会加盟検討委員会です。清水孝雄委員長が中心になって加盟学会の選出をしていますので、これについてはあとでご報告いたします。

次に10. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会。11ページにあります「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会は、この検討委員会の部会で、主にダウン症候群の出生前診断についての施設の認定を行っています。

12. 日本医学会利益相反委員会。これは曾根三郎委員長が中心になってガイドラインを作っておられ、このことについてはまたあとで触れたいと思います。

14. の日本医学雑誌編集者組織委員会。これは北村 聖先生が委員長で、日本医学雑誌編集者会議を開催しています。

15. 研究倫理教育研修会。日本医学会連合の研究倫理委員会、それから日本医学会の医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会の利益相反委員会の3委員会が中心となりまして、研究倫理教育研修会を毎年開催しています。

16. 移植関係学会合同委員会。これは厚労省の依頼を受けて、日本医学会が開催しています。

それから、お手元の資料の終わりのほうにあると思いますが、「日本医学会だより」を、本年度は5月にNo.55を、10月にNo.56を発行しています。これは綴じ込みの「日本医学会だより」をご参照いただきたいと思います。

16. の情報発信。これに関しましては、平成12年10月に日本医学会のホームページを開設しまして、日本医学会分科会の協力を得て、本会のホームページと分科会のホームページをリンクしてい

ます。

それから記者会見や説明会を10月15日に日本医師会の小講堂で、12月2日、11月30日、12月7日、12月28日に日本医師会と合同で、あるいは日本医学会として開いています。

19. 会議等の開催数は、16ページにあります。

20. その他として、日本医学会分科会一覧、日本医学会分科会総会一覧を作成して配りました。また、日本医師会年次報告書—平成28年度—に、日本医学会関係の記事を掲載する予定です。

以上が平成28年度の年次報告ですが、何かご質問、ご意見はありますか。もしなければお認めいただきたいと思います。—拍手—

ここで平成28年度の日本医師会の予算の中で、医学会の支出分についてご報告をいたします。お手元の資料7をご覧ください。1枚の紙になっています。

ここにありますように、平成28年度の日本医師会の予算として、医学会の支出の部が掲載されています。平成28年度の予算総額は1億2,043万4,000円です。日本医師会全体としては1割程度の減額を行っていますが、医学会につきましては昨年度に引き続き同額の予算をいただいています。なお、予算の見直しは引き続き来年度も行われますが、来年度も本年度と同額の予算が認められる予定です。

分科会の名称変更について

議長(高久日本医学会長) 次に、分科会の名称変更についてですが、お手元の資料6をご覧ください。ここにありますように、昨年12月21日付で、学会の名称を「日本民族衛生学会」から「日本健康学会」に変更したいというお申し出でありました。今年の4月1日からこの名称を使用したいとのことで、この件に関しましては日本民族衛生学会が過去3年にわたって検討した結果、昨年11月の第81回総会時にこの名前に変えることを了承されたと、日本医学会にご報告がありました。日本医学会協議会ならびに日本医学会連合企画運営会議で少し議論をしたのですが、日本民族衛生学会で3年間にわたって議論された結果であると

いうことで、日本健康学会という名前に変更されることを、皆様方にご了承いただきお認めいただければと思います。—拍手—

役員選挙(副会長)について

議長(高久日本医学会長) 次に、日本医学会役員選挙の件ですが、これは実は医学会では基礎・社会・臨床の3名が、医学会の副会長として従来認められていましたが、医学会連合は臨床を臨床内科と臨床外科と分けていました。医学会連合は4名の副会長で、医学会が3名の副会長で、それをどのようにするかということ、先ほど開かれました幹事会でいろいろ議論しましたが議論の一致がなかなかみられず、副会長とご相談した結果、医学会連合の総務委員会で、日本医学会は副会長が3名で、日本医学会連合が副会長4名という問題について検討して、6月に開催される医学会連合の総会の際にご報告したいと思います。一応議題の中には載っていますが、以上の次第ですのでご理解いただきたいと思います。

2017(平成29)年度日本医学会事業報告

議長(高久日本医学会長) 次に協議事項になりますが、2017(平成29)年度の日本医学会事業計画の件です。資料2「日本医学会事業計画」になります。ご覧になるとお分かりになると思いますが、これは平成28年度の事業と基本的には同じものになっていますので、ご了承いただければと思います。よろしく願いいたします。

平成28年度日本医学会加盟学会

議長(高久日本医学会長) それでは引き続きまして、平成28年度の日本医学会加盟学会の件についてですが、清水副会長からお願いいたします。

清水加盟検討委員会委員長 本年度から日本医学会加盟検討委員会の委員長を仰せつかってます清水です。審議の経過と結果をご報告いたします。

お手元に「医学会加盟申請学会リスト」が配られていると思いますが、昨年5月15日に加盟申請の公示をしたところ、27学会からの加盟申請

がありました。それで最初に13名の加盟検討委員会委員によって書面審査を行い、その後、上位の学会に関しては、11月22日に加盟検討委員会を開き、そこでかなり十分な議論をいたしました。

27学会から申請がございましたが、最終的には出席委員の2/3以上の賛成がなければ認められないという厳しいルールがありますし、その学会の学術性がどのくらい高いか、国際性があるか、いろいろな社会への貢献度とか、さまざまな基準から審議した結果、日本老年精神医学会、日本静脈経腸栄養学会、この2学会が加盟検討委員会の推薦学会としてふさわしいとの結論となりました。配布資料に会員数、役員構成、医師の果たしている役割、学術集会、英文誌等、この2学会が認められた経緯が書かれています。この2学会を新たに加えることについて、ご審議をいただければと思っています。

特にご異論がなければ、この2つの学会を新たにお認めいただいたとしたいと思います。よろしいでしょうか。—拍手—

本日お認めいただきましたので、このあと3月21日の日本医師会の理事会に報告して、最終的な機関決定ということになります。本日のこの結果については外に出さないようお願いしたいと思います。

議長(高久日本医学会長) 日本老年精神医学会と日本静脈経腸栄養学会は、おそらく臨床系の学会に入っていただくことになると思いますので、ご了承をお願いします。

「日本医学会 COI 管理ガイドライン」案 「日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス」案

議長(高久日本医学会長) 次に「日本医学会 COI 管理ガイドライン」案および「日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス」案について、お諮りしたいと思います。これは資料8-1と8-2をご参照ください。

日本医学会利益相反委員会は先ほどご紹介しましたように、徳島大学名誉教授の曾根三郎先生が委員長を務められ、非常に熱心にガイドラインの

作成をいただいています。最初のガイドラインは2011年の「日本医学会 医学研究のCOIマネジメントに関するガイドライン」です。作成したガイドラインはホームページで公開しています。

その後、一部を改正しましたが、ご案内のように臨床研究についてさまざまなことが近年世間で話題になりました。そういう世間の状況を踏まえたうえで内容の明確化が必要であるという認識から、大幅な改定を行いまして、名称も「日本医学会 COI管理ガイドライン」としました。その経緯並びに内容については資料8-1に書かれていますので、ご参照いただけるとと思います。

一方で、各学会で作られている診療ガイドラインの策定に関わる委員自身のCOI状態については、社会の関心が高く、講演料や執筆料や寄附金等については製薬協の透明性ガイドラインに明示することになっており、そのことがメディアに報道されました。そのような状況を踏まえて、日本医学会では診療ガイドラインの策定に参加する各学会の方々のCOIの管理のために、このたびお手

元にあるように「日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス」案を策定しました。これは先の「日本医学会 COI管理ガイドライン」案と一緒に、昨年11月に原案を各分科会にお送りしてコメントを求めましたところ、70の分科会から回答をいただきました。本日資料8-1と8-2は、この70の分科会からのご意見を踏まえて更新した案です。

本日お認めいただければ、日本医学会のホームページにて公開する予定ですが、何かご意見がありましたらこの場でお寄せいただければと思います。急にお見せして意見を言っても無理だと思いますので、何かお気づきの点がありましたら後で事務局にお知らせいただければ、私から委員長の曾根先生にお送りして、少し検討させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。よろしいでしょうか。一拍手—

それでは本日本予定した議題は以上のとおりですので、特にご意見でなければこれで第84回日本医学会定例評議員会を終わらせていただきます。